月刊喜界島ジオパーク令和６年８月号
「ホーミー」

喜界島ジオパーク推進協議会　統括専門員　鈴木倫太郎

これがホーミーです

皆さん、「ホーミー」をご存知ですか？ホーミーは、喜界島の方言名です。喜界島の海岸でみることができる生き物で、見た目は大きななめくじのような不思議な形と色をしています。このホーミー、生物としての名称は「イソアワモチ」といい、軟体動物の仲間で貝殻をもたない貝です。喜界島を始めとする琉球列島のサンゴ礁の岩場で良く見ることができます。喜界島では、伝統的にこのホーミーを食べています。

令和６年度の公民館講座「喜界島のジオを知る体験教室」では、海岸の潮だまりを観察し、自分たちの手でホーミーを採って調理して味わう講座を７月６日に開催しました。喜界島の海岸線は、その昔、海の中でできたサンゴ礁が隆起した「隆起サンゴ礁」の海岸です。海岸にはたくさんの潮だまりがあり、様々な海の生物を見ることができます。講座は、坂嶺の海岸で生き物の観察から始まりました。参加者は、サンゴやナマコ、シャコガイやヒトデなどの生き物を見つけ、その生態について説明を受けながら楽しく生き物達を観察していきました。生物を観察した後は、ホーミー探しです。ホーミーは、ごつごつした灰色の石灰岩と似た色をしているので、最初は岩との区別がつきません。岩の表面をまんべんなく探していると、だんだん目が慣れてきて見つけられるようになりました。皆さん、真剣な眼差しでホーミーを探し回っていました。採集した後は、喜界島におけるホーミー＆クンマー研究の第一人者、喜界町埋蔵文化財センターの松原信之先生のご指導の下、自然休養村管理センターで実際にホーミーを調理しました。ホーミーを洗って内臓を取り出し、大きな鍋に入れてゆでます。ゆでている間は、松原先生からホーミーとクンマーの生態から食文化、調理方法を詳しく教えていただきました。そして、いざ実食！コリコリした触感とともに磯の香りと貝特有の旨味が口の中に広がっていきます。酢味噌やポン酢の酸味が、その旨味をさらに引き立てます。見た目からは想像することができない美味しさです！ゆで時間の違いによって、食感が違うことも大変面白かったです。

ホーミーが喜界島で多く見られる理由は、喜界島の隆起サンゴ礁のゴツゴツした海岸線が生息に適していると考えられます。喜界島の人達は、この喜界島独自の海岸に棲むホーミーを、海の恵みとして食べる文化を育んできました。まさに喜界島のジオ（大地）の恩恵です。今回の講座では、その恵みを味覚とともに実感することができました。※ホーミーの採集は、漁協の許可を得て実施しました。

ホーミーをみんなで調理

坂嶺での潮だまり観察

月刊喜界島ジオパーク令和６年８月号

「石垣島白保とのアオサンゴの交流」

喜界島ジオパーク推進協議会　統括専門員　鈴木倫太郎

2020 年の夏、喜界島の小野津沖の海において、アオサンゴというサンゴが一面に広がっている群生が発見されました。アオサンゴは、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで「VU（危急種）」に掲載されている希少なサンゴで、喜界島のアオサンゴ群生は地球上で最も北にある貴重なアオサンゴ群生です。日本国内でも琉球列島のいくつかの地域でアオサンゴ群生が見られますが、そのなかでも石垣島の白保サンゴ礁では、世界で最大級といわれる広大なアオサンゴ群生を見ることができます。石垣島の白保集落と喜界島は、以前より同じサンゴ礁文化を有することからお互いに交流を図ってきました。今回、同じアオサンゴ群生に接する地域ということで、白保集落でアオサンゴの保全活用に取組む「白保魚湧く海保全協議会」の方々が来島し、お互いにアオサンゴの生息状況やその保全について情報や意見を交換する交流会を開催しました。

７月８日、まずは白保のメンバーと共に海に潜り、アオサンゴを視察です。喜界島のアオサンゴは、短い枝状の形をしていますが、白保のアオサンゴは板状の形をしています。白保のメンバーは、見慣れない形のアオサンゴに驚いている様子でした。そして、さらにアオサンゴの表面をよく見てみると、白い玉のようなものが付いています。アオサンゴの幼生です！アオサンゴは、オスが海中に放出する精子を体内で受け止めて受精します。そして、メスの体内から幼生が出てきて２～３日メスの表面で過ごす「幼生保育型」という変わった繁殖方法で増えていきます。これまで、喜界島のアオサンゴは性別もわからず、どのように繁殖しているかが解っていませんでした。今回、アオサンゴの幼生を確認したことで、喜界島のアオサンゴはオスとメスが存在し、繁殖していることが明らかになったのです！大発見でした！

小野津沖のアオサンゴ群生

その翌日、役場のコミュニティホールで交流会を開催しました。喜界島側からは喜界島のアオサンゴの状況や、アオサンゴの研究助成の報告がありました。その後、白保側から海域保全のこれまでの経緯、ビーチクリーンや海域清掃などの保全活動、アオサンゴ海域における小中学校向けの海洋学習の取り組みなどが紹介され、アオサンゴ群生が白保の海の象徴として大切にされている様子を伺い知ることができました。今回の交流会では、同じアオサンゴに接する地域同士、親交を深めるとともに、それぞれの保全活用の方法に大いに学ぶことができました。今後も交流を続け、希少なアオサンゴの保全活用に取組んでいきたいと思います。

交流会で語る　白保魚湧く海保全協議会の新里昌央会長

喜界島で初めて確認されたアオサンゴの幼生